

Newsletter

2016 | 冬 |

特定非営利活動法人ジェン
Vol.63



戦闘によって破壊され尽くしたイラク・シンジャールの街 Photo by: Cyril Cappai

世界中で、
人びとの希望を支えていきます。

JENはこれからも
努力を重ねている人びとがいます。

報復の連鎖によって増え続ける
心に深い傷を負った人びと。

破壊の底から
平和な暮らしを、
ふたたび。

啓子さんへ

私は2年前からJENの衛生プロモーターとして、ここザータリ難民キャンプで働き始めました。今は地区の衛生環境を管理するチームでリーダーを任されています。私たちの仕事は、住民が健康・安全に生活を送れるように水衛生施設の整備や水供給を正確に行う事です。難民キャンプのように人びとが密集して暮らしている所では、衛生状態が悪化しやすくそれが病気蔓延の原因になります。ここでは、衛生管理の大切さを広めることもとても大切な仕事の一つです。

キャンプの環境は日々改善されていますがまだ課題があります。敷地内には排水路がない為、雨によって引き起こされる洪水もその一つです。昨年の冬、冷たい雨が降りしきる夜にチーム一丸となって洪水から住民を助けだしたことは忘れられません。今は経験をいかし、洪水による被害を減らすための備えを欠かしません。

キャンプで働き始めた時、仕事の内容、働く環境などすべてが私にとって新しい経験であり圧倒されました。しかし、人びとのニーズに自分たちの力で答えを導き出した時、大きな達成感を得ています。啓子さんは何か問題に直面したときどのように解決していますか？私は世界中の難民を支えられるよう、将来に向けてさらに経験を積んでいきたいと思っています。

JEN ヨルダン
ザータリキャンプ 水衛生チームリーダー
フサム・アル・ユスフ



月に1度のキャンプ清掃の日。住民とともに
キャンプのゴミ拾いを
行うフサムさん。

皆さまからのご寄付は、寄付金控除の対象です。
最大で約40%が所得税の税額控除となります。



生きるちから マンスリーサポーター
あなたの毎月の支援で、世界の人びとの、
生きる力をサポートします。



遺贈寄付
ご自身の財産や大切な方の遺産を、JENが支援
する世界中の人たちへ、確実にお届けします。



郵便局から
00170-2-538657
口座名 JEN



インターネットから
クレジットカードでご寄付いただけます。
(VISA、MASTER、JCB、AMEX)

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。



フサムさんへ

昨年夏のキャンプ訪問時に会った、水衛生チームの皆さんの活躍。今も鮮明に覚えています。そして、悲しみや将来に対する不安を抱えた難民の方々の眼差しも忘れることはできません。

世界中の難民を支えたいと願うフサムさんの意欲を嬉しく思っています。JENの目標は、人びとが自らの力で生きていけるようになり、JENのいない世界を作ること。ザータリの人びとが一日も早くそうなるように、引き続き力を尽くしてくださいね。

人道支援という仕事は、日々、思いもよらない難問が立ちまわります。そんな時は、チームのみんなと徹底的に話し合って考え抜いてみて下さい。難民の方一人ひとりが何を考え何を目標しているのか、直接会って話しているフサムさんたち、チームのみんなは知っているはず。思いがけない解決方法は、多様性の上にあると思います。同じ出来事を経験しても、様々な捉え方がある。その多様な視点が、きっと一石四鳥のワケワクするプロジェクトになることと思います。

JEN事務局長

木山 啓子



特定非営利活動法人ジェン(JEN)
東京本部事務局

〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-16 第二東文堂ビル7F
TEL: 03-5225-9352 FAX: 03-5225-9357

ホームページ
<http://www.jen-npo.org>

NPO JEN

検索

イラク国内避難民支援

2015年1月。JENは解放直後のシンジャール山に身を寄せる避難民へ、真つ先に緊急支援を開始。2度目の冬を迎えた今もなお、避難民は1万人を数えます。山での過酷な生活を、JENは支えています。



1. 強風によって、冬は0度以下に冷えこむ、シンジャール山。

増加の一途をたどる国内避難民

2014年1月より続く、武装勢力と政府治安部隊との衝突。昨年4月の政府治安部隊によるテイクリット奪還により、武装勢力の制圧地域は小さくなりつつあります。一方で、奪還された土地であっても、戦闘によって荒れ果てています。いつまた戦闘状態に戻るともわからない状況で、人びとは故郷へ戻ることはできません。安全な地域に避難する国内避難民は増加の一途をたどり、2015年11月末時点でその数は、約320万人にのびります※。1割の人びとは政府や国連機関、NGOによって運営されている国内避難民キャンプに、残りの9割は建設途中や放棄された建物など、ホストコミュニティで厳しい避難生活を送っています。その内の1つ、シンジャール山には、現在約1万人の避難民が非公式のキャンプで暮らしています。

厳しい避難生活を支える

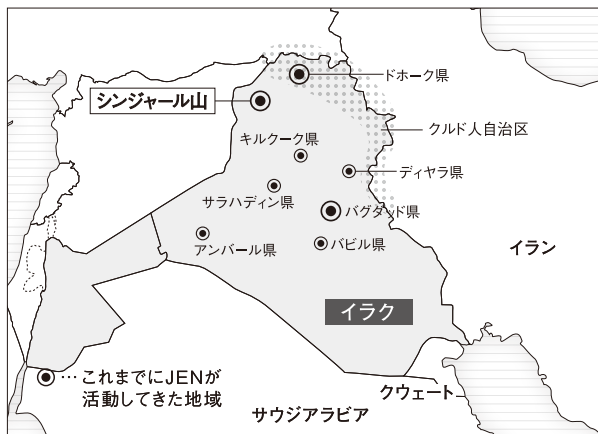
シンジャール山はイラク北西部に位置し、JENDホーク事務所から車で3時間半ほどの場所にあります。ここには、シンジャール地区およびサヌニ地区が武装勢力によって制圧された2014年8月、約5万人の人びとが避難しました。今も、約1万人の避難民がテントや石を積んだだけの簡易な小屋での不衛生な暮らしを強いられています。2015年1月、緊急支援のためにJENが現地を訪れたとき、まだ人道支援はまったく行われていませんでした。その際に行ったニーズ調査では、避難民は山中に2基ある古い井戸から水を汲んでいましたが水質が悪く、水の原因として体調を崩す人が後を絶ちませんでした。JENは水や衛生環境を整えることが最優先事項だと判断、水タンクを設置し安全な水を供給しています。



2. 設置した水タンクから、水をくむ避難民の女性。

50度近くまで気温が上がった夏には、水不足による環境悪化を防ぐため、住民一人につき一日約15リットルの水を確保できるように水タンクを増設しました。住民からは「タンクが増えたので、水くみが以前と比べて楽になり、水不足に悩まされることもなくなった」という声も聞こえてきています。テントで暮らす人びとの生活はとても厳しく、山中の冬は強風のため、夜は0度を下回ります。シャワーはありますが、電気もガスもないため、お湯はできません。1月より、JENは越冬支援の一環として、全1100世帯を対象に住居が少しでも温かくなるようビニールシートや角材などのテント補強材とカーペットを順次配布しています。また、ユニセフと協働で14歳以下の子どもの用の衣料4428セットと、毛布を9902人一人ひとりに配布しました。シンジャール山での厳しい冬を、避難民ができるだけ安心して安全な生活を送れるよう、JENは支援を続けていきます。

※出典：IOM「イラク国際移住機関」2015年11月時点



○面積：約43.74万平方キロメートル(日本の約1.2倍) ○人口：3,342万人
○言語：アラビア語、クルド語、他 ○主要産業：石油(外務省HPより)



3. 服を受け取り喜ぶ子ども。このパッケージには、服や帽子、手袋などの防寒具が。



4. 衣類配布の知らせを受け、順番を待つ避難民の表情には安堵の笑みが。

緊急支援の最前線に行く

戦闘の被害状況を調査するために、ドホークからシンジャールへ向けシリア国境沿いを西に陸路で移動する。このルートは、イラク治安部隊によって既に安全が確保されているが、激しい戦闘だったであろう、延々と破壊の跡が続く。焼け焦げた車輦がそこかしこに放置されている。灰色のがれきに紛れて迫撃弾や砲弾の残骸、履きあした靴や汚れた衣類が散乱している。人びとは、恐怖のあまり一目散に逃げたのだろう。

私は、そこで一人の少年に出会った。少年はがれきの山を飛び回り、ひび割れた皿や洗濯すればまだ着れそうなコートなど、“使えそうなもの”を拾っていた。「家族は無事か？」と聞くと、両親と兄は行方不明。



5. 激しい戦闘は、人びとの生活とシンジャールの街を破壊した。



6. 平穏な日々を一刻にして奪われた少年の心には、どれほど深い傷が刻まれたことだろう。

明で、今は、再会した祖母とふたり、どこにも行くことができず、がれきと化した半壊の建物で寝泊まりしている、という。彼らは幸運にも命を取り留めた。しかし、命以外のすべてを一瞬にして失った。23年もの間、緊急人道支援の最前線に身を置いているが、戦闘直後の街に降り立つたび、なぜ人間はこれほどまでに残忍な行為に及ぶことができるのか、怒りがこみ上げる。

荒れ果てた街の中のISが残した落書きが目に入った。壁にスプレーで、「ISはここにいる」と書かれている。テロの脅威はすぐ近くにあり、つましく暮らす人びとを脅かしている。(文：シリル・カッバイ／グローバル事業部・部長)

写真／1・2・5・6：シリル・カッバイ撮影 3・4：ホザン・カマル・フセイン 撮影

イラク国内避難民の、厳しい避難生活を支えたい。緊急募金にご協力ください。

支援の
お願い

ご寄付は、郵便振替、またはクレジットカードで。



郵便局からご寄付いただけます。

○郵便振替口座 00170-2-538657
○口座名 JEN



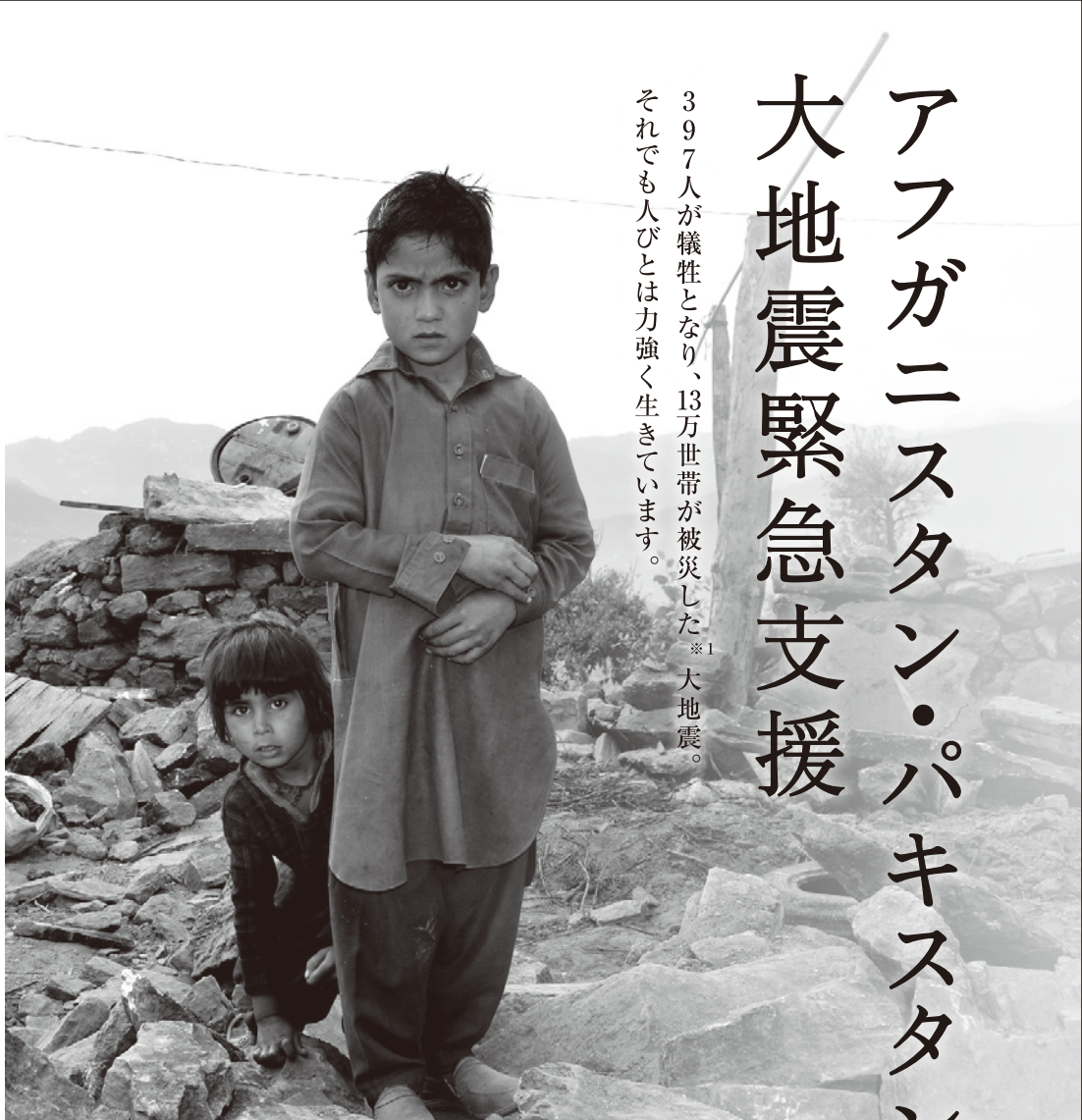
インターネットから、クレジットカードでご寄付いただけます。

○URL www.jen-npo.org
○VISA、MASTER、JCB、AMEX

皆さまからのご寄付は、寄付金控除の対象です。最大で約40%が所得税の税額控除となります。

アフガニスタン・パキスタン 大地震緊急支援

397人が犠牲となり、13万世帯が被災した※1 大地震。
それでも人びとは力強く生きています。



被災地は標高3000m級の山岳地帯です。多くの家が全壊または半壊の被害を受け厳しい寒さが人びとを苦しめています。
(写真右) パキスタン シャン格拉県 (写真左上) アフガニスタン バダフシャン県 (写真左下) パキスタン シャン格拉県



小さな村の大きな心 ～モハメッドの書いた物語～

四輪駆動車で山岳地帯をひた走ると、山の中の小さな村にたどり着きました。私たちが目にしたのは、地震によって多くの家が粉々に倒壊している光景でした。子どもたちが額に汗を光らせて元気に走り回る一方、大人たちは子どもたちを水点下の気候から守れるのだろうか、と不安な面持ちで私たちを迎えてくれました。何人もの村人から被害状況を聞いて、ひとりの男の子が私たちをじっと見つめていることに気づきました。私は大人たちに断りを入れ、少年の元へ近づいて行きました。少し話を聞いてもいいかと尋ねたら、彼は人懐っこく微笑んで、もちろん、と答えました。

「君の名前は？」「モハメッド。4年生」地震後の生活はどう？「嬉しいことはいっぱいの日もあれば、辛い日もある。いい日も悪い日も、どちらも同じように過ぎていくよ」彼は続けてこう言いました。「でもね、辛い日も良い日だよ。だってハシミさんみたいに遠いところから人が来て、友達になれるから。新しい出来事があつた時にはノートに書いておくんだ。それを読むと、毎日新しい事があるって実感するんだ。家の屋根は崩れて、それを直すお金もないけど、少なくとも新しい友達に会えたんだな、って思



JENアフガニスタン・プロジェクトマネージャー
イヤナトラ・ハシミ

えるんだ」。私はこのモハメッドの前向きな気持ちに驚き、書くことが好きなのかと尋ねました。「大好きさ！書いていると、生活の中に新しい喜びが見つかるから」

そう言つて一枚の紙を私に手渡し、彼の書いた物語を読ませてくれました。人災や天災は時に家を破壊したり命を奪います。しかし、より良い未来を求める若者の気持ちと希望を奪うことはできない。モハメッドが書いたものを見て、そう強く感じました。私たちは、彼のような若者の未来を守るためにも活動を続けます。(文：イヤナトラ・ハシミ)



モハメッド(中央) ニーズ調査中、じっとこちらを見つめていた。

モハメッドの書いた物語

戦争にうんざりした少年

作：モハメッド

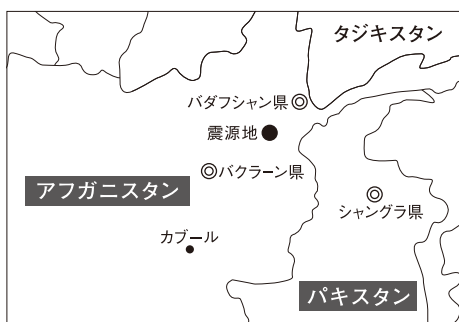
昔々、サレムという男の子がいました。彼は殺人や戦争にうんざりしたので、戦争がないところへ行こうと決心しました。サレムは、他の国へ行つた子どもたちが、その道中で大変な困難に直面したことをよく知っていました。海で溺れて死んだ子がいたし、故郷に戻ることもなく死んだ子もいました。また、他の国に無事に辿り着いたとしても、そこは自分の故郷ではないので、いじめられるだろうと思いました。

そこで、サレムは人間がいない他の星へ行くことにしました。他の惑星へ飛んでいったのです。着いた途端、その星には仲良くする友だちが誰もいないことに気づきました。

何か書きたいと思っても、ペンも紙も宇宙に飛んで行ってしまっていました。重力も、酸素も、水も、食べものも、その惑星にはありませんでした。地球上の全ての武器が重力から解放されて、宇宙に飛んで行ってしまえばいいのにな、とも思いました。

サレムは、自分の小さな村に戻ることにしました。村人にとって、当たり前に見えるもの— 空気や重力、水に食糧、そして人間には愛があることを思い出させ、誰もが互いに愛情を持ち争いのない村をつくったのです。そしてサレムは、自分の村や国ほどに素晴らしい場所はないことを知ったのです。

おしまい



被災者の皆さんが温かく冬を過ごすことができるように石炭やストーブなどを配布しました。

2015年10月26日アフガニスタン北部を震源とするマグニチュード7.5の大地震は、隣国パキスタンを含む広範囲に甚大な被害をもたらしました。被災地は標高3000m級の山が連なるヒンドークシユ山脈の麓の村々です。レンガを積み上げた家に住み、質素な暮らしを営んでいる人びとを襲った今回の地震では、両国合わせて約13万世帯が被災しました※1。

でも戦闘が続き、今もなお20万人近くの人びとが、国内避難民となっており故郷への帰還を待ち望んでいます※3。そこへ追い打ちをかけるかのよう、大地震が発生しました。JENは震災前から両国で支援活動を行っています。そのため、震災直後に被災地へ出動し、緊急支援を開始しました。アフガニスタンでは、バダフシャン県とバグラム県で、パキスタンではシャングラ県で、合計1630世帯を対象に石炭やストーブ、毛布にキッチン用具など、厳しい冬を越すために欠かせない物資を中心に、被災地のニーズに合わせた物資配布を行っています。

※1 出典…UNOCHA 2015年11月23日時点(アフガニスタン)/NDMA 2015年12月8日時点(パキスタン) ※2 クンドゥズ制圧事件…クンドゥズ州の州都が反政府勢力の襲撃を受け、都市の大部分が制圧されました。10月にアフガニスタン国軍が奪還しましたが、大勢の市民が今も避難を余儀なくされています。 ※3 出典…UNOCHA 2015年11月30日



活動報告

東北
TOHOKU被災をきっかけに、
よりよい社会に
復興していく

「男の介護教室」では、介護技術の習得のみならず、ストレスの軽減や参加者どうしの交流も目指しています。

東日本大震災から間もなく5年。被災地では震災前から問題だった介護問題、若い世代の流出・貧困問題などが顕在化しています。JENはこれらの社会的な問題を解決するため、昨年10月より、岩手県宮城県福島県で活躍する地元のNPOや市民グループとパートナーシップを組み活動を始めました。

パートナー団体の1つ、宮城県「男の介護教室」では、震災によって家族がばらばらに暮らすことを余儀なくされ、突然介護する立場になった男性介護者を対象に、介護教室を開催しています。個人々への相談対応を通して、介護をめぐる苦悩を和らげ、介護されている人と介護する人双方の生活の質の向上を目指しています。岩手県では、女性や若者が地元で活躍するための環境づくりに取り組む「Save Taketa」と、福島県では男女共同参画の視点にたった地域防災の取り組みを行う「減災と男女共同参画 研修推進センター(GDRR)」とともに活動を行っています。

JENはこれからも地域のパートナー団体とともに、東北の復興の在り方を模索していきます。



マーケティングのワークショップでは、取引業者との交渉術や、効果的な販売方法などを学びます。

スリランカ
SRI LANKA地域を巻き込んで
生まれた
自立への歩み

スリランカの人びとを長く苦しめた内戦が終結して6年が経ちました。昨年1月には新しい大統領が選出され、行政システムも変わりました。国民一人ひとりの願いと努力によって平和が訪れたことを実感する年になりました。

JENは、避難先から戻った帰還民を対象に、コミュニティ再建の活動を通して平和構築に貢献しています。昨年は、82世帯が所属する4つの農業協同組合(農協)の設立と強化を行いました。活動するための建物を建設し、運営方法や商品の生産、マーケティング

ハイチ
HAITIこの6年間を振り返って
～ご協力をありがとうございました～

2016年1月を以って、6年間に渡るハイチでの支援活動を終了いたしました。2010年1月12日に起きた、マグニチュード7の大地震。この地震により、31万人に及ぶ方が犠牲または行方不明になりました※1。同年10月にはコレラが大流行し、2014年までに73万人の人びとがコレラに感染し8768人が亡くなりました※2。

JENは、震災直後に甚大な被害を受けたレオガン市とグランゴアープ市にて緊急支援を開始し、被災者4700世帯にトタン板、ハンマー、釘などシールターキットを配布しました。このキットは、震災直後の仮設住宅として重宝され、さらに、住居の再建に再利用されました。これと並行して、ハイチが抱えていた劣悪な衛生環境を改善するために、JENは主に3つの活動を行いました。まず、人びとが安全な水を得られるように給水施設を建設しました。次に、地域の力で給水施設などを管理できるように、水管理委員会の結成・育成を行いました。最後に、各家庭、学校、保健所を訪問し、コレラなどの水因性

感染症を予防するための衛生促進活動を行いました。完成した給水施設で、洗濯をしていた女性の嬉しそうな笑顔が忘れられません。今までハイチを支援してくださった方々、JENと共に汗を流したスタッフに感謝を表したいと思えます。地震から6年が経ち、復興から開発のフーズに入りました。JENの支援は終了しますが、今までの出会った地域の仲間が、今後もハイチの開発に関わり、発展に貢献してくれることを信じています。6年間本当にありがとうございました。

※1 出典…ハイチ政府、2011年1月 ※2 出典…国連ハイチ事務所Haiti Cholera response



(右上) 給水施設が完成したので、川の水で洗濯しなくてもよくなりました／グランゴアープ市 (右下) 衛生促進員と小学生／グレンエ市 (左上) 水管理委員会スタッフとJENスタッフ。キオスク型給水施設の前にて／グランゴアープ市 (左下)「手洗いの歌」で楽しく学ぶ衛生知識／レオガン市



▶ HOW TO JOIN



JENホームページ、または東京本部事務局に電話でお申込み。
■ www.jen-npo.org/bookmagic/
■ 03-5225-9352



読み終わった本・CD・DVD・ゲームソフトを段ボールに詰める。
*お引取りは書籍のみの場合は30点以上から。また、CD・DVD・ゲーム等のソフト類のいずれかが5点以上から。



ダンボールに入れて送るだけで、眠ってる本が学校に!



日本全国どこでも、送料無料でお引き取り!



買取額が、学校建設費用などに。

▶ REPORT

ブック・マジックを通じたご寄付の総額
(2004年～2015年12月末)

¥35,341,316

こちらよろしくね!

お宝エイド



書き損じのハガキや、要らなくなった携帯など、モノで寄付する「お宝エイド®」ご家庭に眠っている「お宝」が支援になる、新しい寄付のカタチです。詳しくはWEBサイトから!
www.jen-npo.org/otakara-eido/

EVENT

2月16日(火)
日本ワイン・チャリティ・
パーティを開催



毎回皆様にご好評いただいている、ワインのチャリティイベント。今回は北海道から九州まで、24のワイナリーによる約100種のワインが集結!「オレゴンバーアンドグリル」が腕をふるうお料理もご堪能ください。イベントの収入はJENの活動に寄付されます。詳細・お申込みはWEBサイトから!

www.jen-npo.org/wine2016/

PRESENT

2月12日全国公開映画
「ディーパンの闘い」
劇場鑑賞券プレゼント



© 2015 - WHY NOT PRODUCTIONS - PAGE 114 - FRANCE 2 CINEMA

内戦下のスリランカを逃れフランスで難民生活を送る、元兵士ディーパンと女と少女の物語。映画、「ディーパンの闘い」。2015年度カンヌ映画祭において、最高賞を受賞した本作の劇場鑑賞券(全国共通)を抽選で3組6名様へプレゼント! お名前、ご住所、お電話番号を明記の上、下記までご応募ください。当選者の発表は発送を以って代えさせていただきます。

info@jen-npo.org

JENは、「第22回読売国際協力賞」を受賞いたしました。

1994年の創設以来、延べ24の国や地域において、支援活動を通して紛争や自然災害に被災した人びとが再び希望を取り戻し、自立した生活を送ることができるようになるまでを支えてきました。

同賞はこの度、現地のスタッフとともに行ってきた21年間の活動に対して受賞しました。また、2014年以降、イスラム武装勢力の台頭により多くのイラク国民が国内避難民となることを強いられています。この緊急事態に対するヤジィーディ教徒の緊急人道支援に対し、高い評価を頂きました。

改めまして、これまでJENの活動を支えてくださった全ての皆さまと、21年間の地道な活動に光をあてて頂きました関係者の皆さまに、心からの感謝を申し上げます。